月　日 名前 ／100点

【答え】

【小4】国語 文章問題　物語文 3

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

鉄ぼうの前に立つと、ぼくはいつも足がすくむ。クラスでさかあがりができないのは、もうぼくだけになっていた。

放課後、だれもいない校庭で練習していると、同じクラスのけんたくんがやって来た。

「手つだおうか。」

ぼくは首をよこにふった。できないところを見られるのが、いやだったからだ。けれど、けんたくんは帰らなかった。少しはなれた所にすわって、ただ見ていた。

何回やっても、足はとちゅうで下がってしまう。手のひらは赤くなって、じんじんした。

「おなかを、鉄ぼうにくっつけるつもりでやってみて。ぼくもそれでできたんだ。」

けんたくんがぽつりと言った。ぼくはだまってうなずいて、もう一度鉄ぼうをにぎった。おなかを鉄ぼうにくっつける。そう思って、地面を強くけった。

くるりと、空が回った。

気がつくと、ぼくは鉄ぼうの上にいた。

「できた。」

声が出たのは、ぼくよりけんたくんのほうが先だった。けんたくんは、ぼくよりうれしそうな顔をして、手をたたいていた。

帰り道、ぼくは赤くなった手のひらを、何度も見た。いたいはずなのに、ちっともいやではなかった。あしたは、ぼくのほうから「いっしょに帰ろう」と言ってみようと思った。

（この問題のための書き下ろし）

問一　ぼくが、けんたくんに手つだってもらうのをことわったのはなぜですか。「～から」につづくように、本文から二十字までで書きぬきましょう。

できないところを見られるのが、いやだった

問二　けんたくんが「ぼくもそれでできたんだ」と言ったことから分かることは何ですか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　けんたくんは、早く家に帰りたかったこと。
イ　けんたくんは、さかあがりを教える先生だったこと。
ウ　けんたくんも、前はさかあがりが苦手だったこと。

ウ

問三　「くるりと、空が回った」は、どんなことを表していますか。いちばんあうものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　急に天気が悪くなったこと。
イ　ぼくがさかあがりをして、体が回ったこと。
ウ　けんたくんが、鉄ぼうで回ってみせたこと。

イ

問四　帰り道、「いたいはずなのに、ちっともいやではなかった」のはなぜですか。四十字までで書きましょう。

けんたくんのおかげで、さかあがりができたうれしさのほうが大きかったから。

【小4】国語 文章問題　物語文 3　答えと解説

問一（二十五点）　答え：できないところを見られるのが、いやだった

解説：四つ目のまとまりの二つ目の文から。

問二（二十五点）　答え：ウ

解説：「それでできた」ということは、けんたくんにもできなかったころがあったと分かる。だから、ぼくの気持ちが分かり、ずっと見ていてくれた。

問三（二十五点）　答え：イ

解説：すぐあとの「気がつくと、ぼくは鉄ぼうの上にいた」から。さかあがりで体が回り、見えている空が回ったように感じたことを表している。

問四（二十五点）　答えの例：けんたくんのおかげで、さかあがりができたうれしさのほうが大きかったから。

解説：手のひらのいたみは、さかあがりができるまでがんばったしるし。「できたうれしさ」と「けんたくんのおかげ」の二つが入っていれば正かい。

採点のポイント（二つそろって満点、一つなら半分）

①さかあがりができた（うれしい）

②けんたくんが見ていて、こつを教えてくれた